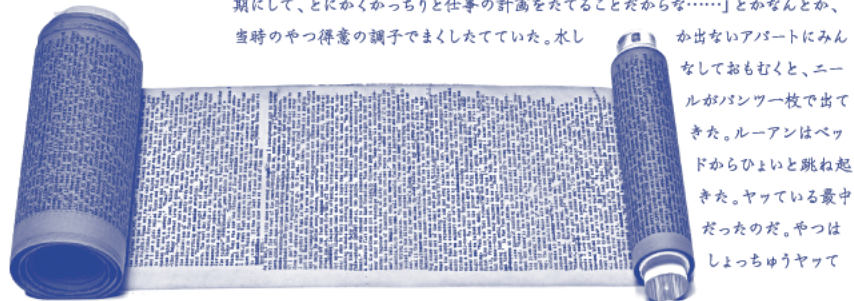


On the Road:
The Original Scroll
(Penguin Modern Classics)

第1部 ニールに初めて会ったのは、父が死んでまもない頃だった……ひどい病氣から立ち直ったばかりのときだが、その話はあまりしたくないので、父の死と、なにもかもおしまいだというほどの悲惨な気分が原因の病だった、とそのくらいにしておく。ニールの登場で、ぼくの人生のもうひとつの章、路上の人生とでも言えそうなものが始まったのだ。それ以前にも、大陸を見るために西部まで行ってみようかと夢見たことはしょっちゅうあったが、ぼんやりと考えるだけで具体的に飛び出たりすることはなかった。ニールはまさに路上の男、誕生したのも路上で一九二六年、ロサンジェルスへ向かう両親がユタのソールトレイク・シティを通過しているとき、ポロ車のなかで生まれた。ニールの存在を教えてくれたのはハル・チェイスで、コロラドの少年院からとどいた手紙を何通か見せてくれたのだ。ニーチェについてぜんぶ、それと物知りで有名なおまえのすくい知識をぜんぶ教える、とハルに頼んでいるナイーブでかわいらしい文面に、だんぜん興味をそそられた。それらの手紙の話はアレン・ギンズバーグともしたことがあり、この変なニール・キャサディとかいうやつといつか会うことになるのかねえ、と話し合ったりもした。ずいぶん昔のことで、ニールがいまみたいじゃなく、謎に包まれた少年囚だった頃の話だ。そのうち、ニールが少年院を出た、初めてニューヨークに来る、という噂が流れてきた。ルーアンなる十六歳の女と結婚したばかりだという話もくっついてきた。ある日、コロラドのキャンパスをぶらぶらしていると、ハルとエド・ホワイトが声をかけてきて、ニールが到着した、東ハーレムことスバニッシュ・ハーレムの、水しか出ないボブ・マルキンというやつとアパートに転がりこんでいる、と言った。前の晩、初めてのニューヨークに、美人で小柄でシャープな女ルーアンと到着したのだ。五十丁目でグレイハウンド・バスを降りたふたりはなにか食べる場所はないかと探してまわり、ヘクターズに入った。だから、それ以来ヘクターズというカフェテリアはニールにはニューヨークのどっかいシンボルになっている。美しくピグなてかてかに光るケーキとシュークリームにふたりは大枚をはいた。そのあいだずっとニールはルーアンにしゃべりつづけていた。「なあ、ダーリン、とうとうニューヨークだ、いままでちゃんと言わなかったが、ミズーリを横断してたときも、檻の中を思いださせるボンネヴィル少年院の前を通過してたときもすぐ考えてたんだ、おれたちがいまぜたいやらなきやならないことはな、ふたりの愛にかんするなんだかんだはぜんぶ延期にして、とにかくかっちりと仕事の計画をたてることだからな……」とかなんとか、当時のやつ得意の調子でまくしたてていた。水しか出ないアパートにみんな



なしておむくと、ニールがパンツ一枚で出てきた。ルーアンはベッドからひよと跳ね起きた。ヤッている最中だったのだ。やつはしょっちゅうヤッて

今読む オン・ザ・ロード ブックガイド

「オン・ザ・ロード」が刊行されて50年。

大人達の社会から脱しようとしてアメリカを縦に横に疾駆する若者たちの姿。今までの「オン・ザ・ロード」はケルアック、パロウズ、ギンズバーグを中心とした「ビートジェネレーション」という括りで語られることが大半でした。

青山南さんの新訳によって生まれ変わった「オン・ザ・ロード」がついに文庫化されます。

そこで今回「ビート=50年代のアメリカ西海岸のシーン」という従来のイメージを再確認しつつも、その枠を超え「オン・ザ・ロード」の持っている魅力・可能性をより広げていけるような地図を作ってみようと思ひ立ちました。6つのテーマで広がる「オン・ザ・ロード」の世界。

"On the Road" Book Guide.
2010 KAWADE SHOBO SHINSHA LTD. Publishers



ON THE ROAD

第1部

ディーンに初めて会ったのは、妻と別れてまもない頃だった。ひどい病氣から立ち直ったばかりのときだが、その話はあまりしたくないので、くたくたに疲れた別れのこのことと、なにもかもおしまいだというほどの気分が原因の病だった、とそのくらいにしておく。ディーン・モリアーティの登場で、ぼくの人生のもうひとつの章、の人生とでも言えそうなものが始まったのだ。それまでも、大陸を見るために西部まで行ってみようかと夢見たことはしょっちゅうあったが、ぼんやりと考えるだけで飛び出したことはなかった。ディーンはまさに男、誕生したのも一九二六年、ロサンジェルスへ向かう両親がユタのソールトレイク・シティを通過しているとき、ポロ車のなかで生まれた。やつが存在を教えてくれたのはチャド・キングで、ニューメキシコの少年院からとどいた手紙を何通か見せてくれたのだ。ニーチェについてぜんぶ、それとおまえの知っているすくい知識をぜんぶ教える、とチャドに頼んでいるナイーブでかわいらしい文面に、だんぜん興味をそそられた。その手紙の話はカーオともしたことがあり、この変なディーン・モリアーティとかいうやつといつか会うことになるのかねえ、と話し合ったりもした。ずいぶん昔のことで、ディーンがいまみたいじゃなく、謎に包まれた少年囚だった頃の話だ。そのうち、ディーンが少年院を出た、初めてニューヨークに来る、という噂が流れてきた。メリールウなる女と結婚したばかりだという話もくっついてきた。

ある日、キャンパスをぶらぶらしていると、チャドとティム・グレイが声をかけてきて、東ハーレムことスバニッシュ・ハーレムの、水しか出ないアパートにディーンが転がりこんでいる、と言った。初めてのニューヨークに、前の晩、美人で小柄でシャープな女メリールウと到着したのだ。五十丁目でグレイハウンド・バスを降りたふたりはなにか食べる場所はないかと探してまわり、ヘクターズに入った。だから、それ以来ヘクターズというカフェテリアはディーンにはニューヨークのどっかいシンボルになっている。美しくピグなてかてかに光るケーキとシュークリームにふたりは大枚をはいた。

そのあいだずっとディーンはメリールウにしゃべりつづけていた。「なあ、ダーリン、とうとうニューヨークだ、いままでちゃんと言わなかったが、ミズーリを横断してたときも、檻の中を思いださせるボンネヴィル少年院の前を通過してたときもすぐ考えてたんだ、おれたちがいまぜたいやらなきやならないことはな、ふたりの愛にかんするなんだかんだはぜんぶ延期にして、とにかくかっちりと仕事の計画をたてることだからな……」とかなんとか、当時の得意の調子でまくしたてていた。

水しか出ないアパートにみんなしておむくと、ディーンがパンツ一枚で出てきた。メリールウはカウチから跳ね起きた。ディーンはアパートの住人をキッチンに追いやってコーヒーをいれさせ、せせと愛の営みに専念していたのだ。なにしろ、やつにはセックスが人生で唯一の神聖にして重要きまりないもので、生活費稼ぎはしかたなく汗をかきかき呪いながらやるものだった。それはやつ得意のひよこひよこした育の動かしかたにも現れていて、うつむきかげんにひとの話をうんうんうなづく姿はいかにも指示にしたがう若いボクサー風だが、じつは聞いてますよと思わせるために「いいね」とか「そのとおり」とか何子回も無闇に相槌を打っているだけなのだった。ディーン的第一印象は若い頃のジーン・オートリだなと



河出文庫「オン・ザ・ロード」

ジャック・ケルアック 青山南訳 ISBN978-4-309-46334-6 998円



ビート・ジェネレーションが、ビートが、ヒップスターが、一九六〇年代のカウンターカルチャーを準備することになったのは、いまや、アメリカ文化史の定説である。Tシャツやジーンズのアメリカ文化、『オン・ザ・ロード』から言葉借りるなら、「自然に快楽の自然の洋服屋」の葉いがかつうになったのはカウンターカルチャーのおかげだが、その源にこの本はあって、多くの人を動かしてきた。

「文学的立場とは関係なく、この男にはひとを動かす力があつた」
(青山南 河出文庫「オン・ザ・ロード」訳者あとがきより)

「スクロール版 オン・ザ・ロード」

ジャック・ケルアック 青山南訳 ISBN978-4-309-20542-7 3,675円



『オン・ザ・ロード』の最初の原稿となるものが一九五一年四月に三週間ていっせに書かれたことは、ジャック・ケルアックのファンのおいだではよく知られていたが、本書は、『オン・ザ・ロード』のオリジナル版ともいふべき、長らく幻だったその原稿の翻訳である。

紙をいちいち交換していたのでは言葉の流れを妨げて集中の邪魔になるといので、ケルアックは、紙をテープでつないで長くしたものをつかい、タイプでがが打っていった。その結果、書きあがった原稿は巻物のように丸まった。(青山南「スクロール版 オン・ザ・ロード」訳者あとがきより)

「そしてカバたちはタンクで茹で死に」

ジャック・ケルアック/ウィリアム・パロウズ 山形浩生訳 ISBN978-4-309-20539-7 2,100円



本書『そしてカバたちはタンクで茹で死に』の後で、パロウズはドラッグに手を出すようになり、そしてメキシコに移住して『ジャンキー』を書く。さらにその地で妻殺しを経てタンジェール生活、服ドラッグを経て、かの「裸のランチ」が誕生する。だがそれはずいぶん先の話となる。ある意味で、本書はパロウズと関連づけられるこうした各種できごと以前の、一つのまとめだった。

本書を句点と考え、それまでのパロウズ人生の総括と考えて、それ以降のドラッグに始まるエピソードは人生のまったくちがう段階ととらえるのか、それともパロウズの長い人生の中で、果敢な一つの読点と考えるのか、それはあな次第。(山形浩生「そしてカバたちはタンクで茹で死に」訳者あとがきより)

青春

J.D. サリンジャー
キャッチャー・イン・ザ・ライ
白水社 ¥1680

中上健次
十九歳の地図
河出文庫 ¥489

タオ・リン
イー・イー・イー
河出書房新社
¥1470



スタンダール
赤と黒
光文社古典新訳文庫
(上) ¥800 (下) ¥1155

アルチュール・ランボー
ランボー全詩集
河出文庫
¥1100



フランソワーズ・サガン
悲しみよこんにちは
新潮文庫 ¥460

ミシェル・トゥルニエ
メテオール(気象)
国書刊行会 ¥2854

ジム・キャロル
マンハッタン少年日記
河出文庫 ¥893

シルヴィア・プラス
ベル・ジャー
河出書房新社 ¥1785

マーク・トウェイン
ハックルベリー・フィンの冒険
岩波文庫(上・下とも) ¥588

ポール・ニザン
アデン・アラビア/名譽の戦場
河出書房新社
¥2520



坂口安吾
墮落論
新潮文庫 ¥540

チャールズ・ブコウスキー
くそつたれ!少年時代
河出文庫 ¥1260

ECD
ホームシック生活(2-3人分)
フィルムアート社 ¥1890

山崎ナオコ
浮世でランチ
河出文庫 ¥567

旅、移動すること

石川直樹
最後の冒険家
集英社
¥1680

藤原新也
印度放浪
朝日文庫 ¥1050

金子光晴
マレー蘭印紀行
中公文庫
¥680

沢木耕太郎
深夜特急
新潮文庫(1~4 ¥420, 5~6 ¥460)

ブルース・チャトウィン
パタゴニア/古いぼれグリーンゴ
河出書房新社
¥2940



四方田犬彦
見ることの塩
作品社 ¥2520

ピーター・マシーセン
雪豹
ハヤマワ文庫 NF ¥945

ロバート・バーシグ
禪とオートバイ修理技術
ハヤカワ文庫 NF
(上・下とも) ¥798

コーマック・マッカーシー
すべての美しい馬
ハヤカワ epi 文庫 ¥987

ジョン・クラカワー
荒野へ
集英社文庫 ¥700

ジョン・スタインベック
チャーリーとの旅
ポプラ社 ¥1890

佐藤真
エドワード・サイード
OUT OF PLACE
みすず書房 ¥2100

カルロス・カスタネダ
呪術師と私
一見書房
¥2310

パウル・コエーリョ
アルケミスト
角川文庫 ¥580

管啓次郎
斜線の旅
インスクリプト ¥2520

アルフォンソ・リンギス
汝の敵を愛せ
洛北出版 ¥2730

ジェリー・ガルシア
自分の生き方をさがしている
人のために
ヒットチャートとは無縁でもライブの収益はアメリカトップ、録音自由、即興演奏と60年代のビートルズ/サイケデリック文化を代表するアメリカの伝説的バンド、グレイトフル・バッドのリーダー、ジェリー・ガルシアによる啓蒙的若年誌。

outside/r USA

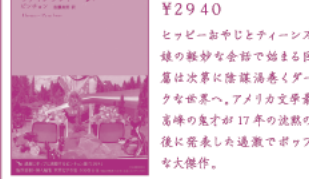
ジーン・リース
灯台へ/サルガッソーの広い海
河出書房新社
¥2730



フランツ・カフカ
失踪者/カッサンドラ
河出書房新社 ¥2940

リチャード・ブローディガン
西瓜糖の日々
河出文庫 ¥760円

トマス・ピンチョン
ヴァインランド
河出書房新社
¥2940



サロイヤン
人間喜劇
晶文社 ¥1890

チャールズ・ブコウスキー
ブコウスキーの酔いどれ紀行
河出文庫
¥893



ゾラ・ニール・ハーストン
ハーストン自伝 路上の砂塵
新宿書房 ¥2650

サンドラ・シスネロス
サンアントニオの靑い月
晶文社 ¥2310

ルドルフォ・アナヤ
ウルティマ、ぼくに大地の教えを
羊思社 ¥2310

ヘンリー・D・ツロー
森の生活 上・下
岩波文庫(上) ¥693 (下) 735

ジャック・ロンドン
荒野の呼び声
光文社古典新訳文庫 ¥500

クロス・ロドリー
デイヴィッド・リンチ
フィルムアート社 ¥2835

ジェフ・チャン
ヒップホップ・ジェネレーション
リットーミュージック ¥3360

ドン・ゴード
Hi, HOW ARE YOU? 無垢なる
モンスター、ダニエル・ジョンストン
PRESSPOP GALLERY ¥1890

ジェリー・ガルシア
自分の生き方をさがしている
人のために
ヒットチャートとは無縁でもライブの収益はアメリカトップ、録音自由、即興演奏と60年代のビートルズ/サイケデリック文化を代表するアメリカの伝説的バンド、グレイトフル・バッドのリーダー、ジェリー・ガルシアによる啓蒙的若年誌。

モデルたち、ビートジュネレーション

ケルアック
孤独な旅人
河出文庫
¥903

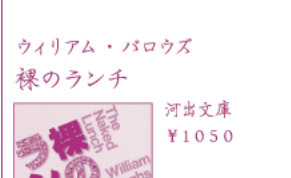


ケルアック
ザ・ダルマ・バムズ
講談社文芸文庫 ¥1995

イーディ・ケルアック・パーカー
ジャック・ケルアックと過ごした日々 そのままでいいよ。
トランジスター・プレス
6月刊行予定

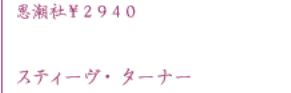
アレン・ギンズバーク
ギンズバーク詩集
思潮社 ¥2854

ウィリアム・パロウス
裸のランチ
河出文庫
¥1050



ゲイリー・スナイダー
終わりなき山河
思潮社 ¥2940

ステイヴ・ターナー
ジャック・ケルアック
放浪天使の歌
河出書房新社
¥3675



バリー・ギフォードほか
ケルアック
毎日新聞社 ¥3570

キャロリン・キャサディ
ハートビート
新宿書房 ¥1680

ロバート・フランク
Coyote No.35
特集ロバート・フランク
はじまりのアメリカ
スイッチパブリッシング ¥1470

チャーリー・パーカー
チャーリー・パーカーの伝説
晶文社 ¥3780

トム・ウェイツ
トム・ウェイツ
素面の、酔いどれ天使
東邦出版 ¥2730

ビル・モーガン
ビート・ジェネレーション
ケルアックと旅するニューヨーク
ブルース・インターアクションズ
¥2500

チャーリー・パーカー
チャーリー・パーカーの伝説
晶文社 ¥3780

トム・ウェイツ
トム・ウェイツ
素面の、酔いどれ天使
東邦出版 ¥2730

ビル・モーガン
ビート・ジェネレーション
ケルアックと旅するニューヨーク
ブルース・インターアクションズ
¥2500

同時代の作家たち

ヘンリー・ミラー
北回歸線
新潮文庫 ¥780
南回歸線
講談社文芸文庫 ¥1785

ジャン・ジュネ
泥棒日記
新潮文庫
¥740

セリーヌ
夜の果てへの旅
中公文庫(上) ¥880 (下) 980

ポール・エリュアール
grain-d' aile グランデール
エクリ ¥2100

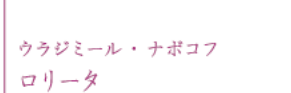
サミュエル・ベケット
ゴドーを待ちながら
白水社 ¥2520

パブロ・ネルーダ
ネルーダ詩集
思潮社 ¥1223

ギョーム・アポリネール
アポリネール詩集
新潮文庫 ¥420

ウラジミール・ナボコフ
ロリータ
新潮文庫 ¥900

ジェレミー・マーサー
シェイクスピア&カンパニー
書店の優しき日々
河出書房新社
¥2730



アラン・ロブ＝グリエ
快樂の館
河出文庫
¥924

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

アラン・ロブ＝グリエ
快樂の館
河出文庫
¥924

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ケルアックが愛した作家たち、ケルアックを愛した作家たち

ホイットマン
おれにはアメリカの
歌声が聞こえる
光文社古典新訳文庫
¥460

ドストエフスキー
カラマゾフの兄弟 1~5
光文社古典新訳文庫
(1) ¥760 (2) ¥820
(3) ¥880 (4) ¥1080
(5) ¥660

アラン・フルニエ
ゲラン・モーヌ
みすず書房 ¥2520

ジャック・ロンドン
火を熾す
スイッチパブリッシング ¥2205

ボブ・ディラン
ボブ・ディラン自伝
ソフトバンククリエイティブ ¥1890

ジム・モリスン
ジム・モリスン詩集
-「神」「新しい創造物」
新宿書房 ¥2520

トマス・ピンチョン
スロー・ラーナー
ちくま文庫 ¥945

トム・ウルフ
クール・クール LSD 交感テスト
太陽社 ¥2310

森山大道
犬の記憶
河出文庫
¥777

町田康
告白
中公文庫 ¥1200

角田光代
ぼくとネモ号と彼女たち
河出文庫
¥473

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

ボリス・ヴィアン
うたかたの日々
ハヤカワ epi 文庫 ¥672

ファン・ルルフォ
燃える平原
書肆風の蕃館 ¥2100

